

15回目のYKS全国勉強会 32名参加

「タンパク質(ミオシン)から迫る、心筋と骨格筋の違いとは？」黄勇太氏

「前腕形状計測に基づく上肢の動作推定」趙崇貴氏が発表



「在日同胞若手研究者の会(Young Korean Scientists; 以下YKS)」が主催する全国勉強会が2019年11月9～10日にかけて、東京都内にて開催されました。この全国勉強会は、在日同胞若手研究者たちが学術的な交流をする場として毎年催されており、今回で15回目の開催となりました。今年の全国勉強会には、全国各地から学生や研究者、技術者ら総勢32名が参加し、例年以上に大盛況となりました。

今年の全国勉強会は懇親会と勉強会の二部構成で行われました。

懇親会では、参加者の皆がフランクに話し合いながら、日々の勉強や研究、仕事について共有する場となりました。初対面の方々がいる中でも話しやすい雰囲気がつくられ、学生同士が仲良くなったり、先輩方からアドバイスをいただいたりと、様々なバックグラウンドをもつ在日同胞若手研究者たちが交流できた、魅力溢れる懇親会となりました。

勉強会では、二人の大学院生が研究発表をして学術交流を行いました。黄勇太さん(東京大学大学院博士2年)が「タンパク質(ミオシン)から迫

る、心筋と骨格筋の違いとは？」、趙崇貴さん(奈良先端科学技術大学院大学博士3年)が「前腕形状計測に基づく上肢の動作推定」というタイトルでそれぞれ発表を行いました。発表者たちは専門外の方々にもわかりやすい内容で話し、活発で自由な質疑応答が参加者全員で繰り広げられ、まさに「在日同胞若手研究者たちの学術交流」と呼ぶにふさわしい有意義な場となりました(写真)。

YKS全国勉強会には、毎回参加する常連の方々もいれば、初めて参加する方々もいます。そのような中でも、「在日同胞若手研究者」という同じ境遇があれば、分け隔てなく話し合っ、つながりを広げていけるのかもしれない。実際、参加者から「一緒の分野で学んでいる人や先輩の話を聞けたり聞いてあげられたのでとても有意義な時間だった」「機会があればまた参加したい」との感想をいただきました。YKS事務局一同、このような思いを広げていきたい所存でございます。

このような貴重な場を設けるために、今年も成和記念財団の学術活動支援を拝受する事となりました。貴財団の御厚意により、大変有意義な会を催す事ができました。深く御礼申し上げます。

【YKS2019全国合同勉強会事務局】